

Fouquier, Marcel

Paris au XVIII^e siècle ; ses divertissements — ses mœurs ; directory
et consulat.

Paris, Émile - Paul, 1912. (文献番号11-124)

Hiler p. 323

フーキェ著

18世紀のパリ；ディレクトワール（總裁政府）時代とコンシュラ（統領政府）時代の娯楽
と風俗

「18世紀のパリ」の第2部として1912年ごろパリで発行された。第1部「フォーリー」と同様に
数多くの精巧な版画を含む、アルシュ紙146頁からなる豪華本で550部が限定出版された。

内容は、副題に「ディレクトワール時代とコンシュラ時代の娯楽と風俗」と記されているよ
うに、フランス革命後の1795年から1804年までの10年間、すなわちディレクトワール時代1795
-1799年、コンシュラ時代1799-1804年における風俗とこの時代に流行した様々な娯楽につい
て多くの版画によって視覚的に解説したものである。第1部ではフォーリーの建築的側面と、そ
れを彩った当時の精神的傾向を描写しているが、本書では、さらに、そうした世情を反映しな
がら人々はどのような娯楽を持ち、うさばらしに興じたのかを明らかにしようとしている。

時代背景となったのは、革命色の濃い18世紀末であった。これより少し前、ボルテール、モ
ンテスキューの思想に基づく法の前の平等と主権分権のもとに成立する新しい社会構想が急速
に広がっていった。サロンだけのものであった哲学は一般人の間にも浸透しはじめ、新しい要
求に応じ得るルソーの思想が流行した。次第に物質主義がサロンに侵入し、中産階級では新興
勢力・ブルジョアジーが台頭すると、相対的に貴族の地位は下降した。旧体制下、王に対して
膨大な経済的負担と無為な精神的奉仕を強いられていた貴族たちは、すでに、このような人為
的生活のむなしさに気づいており、自然な感情を享受する生活にもどりたくと望んでいた一方、
打ち続く戦争で田畑は不毛の地と化し、惨状をきわめていたにもかかわらず、税金は農民に重
くのしかかっていた。すべての階層で、人々は疲れ果て、〈変化〉が待ち望まれていた。——旧
体制はこうして消滅した。

革命後、人々は新体制の勝利に酔い、祭りにつぐ祭りにあけくれる。記念祭、舞踏会、コン
サートが町の広場やサロンで十年近くもの間、休みなく続けられる。人々は意識的に政治を忘
れ、うさばらしをすることのみを考える。

こうして当時の人々の要求は、種々様々な娯楽や楽しみを作り出したのであり、本書はこう
したフランス革命の裏側に存在した遊びの歴史と、当時の風俗を知る上で大変興味深いもの
となっている。

なお、作者フーキェは、「18世紀のパリ」、第1部、第2部の他には著作がなく、その経歴につ
いてはよく分らない。